

「地方創生と社会に開かれた教育課程」

岡山県教育委員会委員

梶谷 俊介



人口減少社会の中で、地方創生が国を挙げた大きなテーマとなりました。それぞれの自治体が人口ビジョンと創生総合戦略を策定して取り組んできていますが、成果が出ているとは言えません。

地方創生を成し遂げるには行政だけでなく、そこに暮らす人々や企業が自分たちの地域の将来像について共通認識をもって、行動していくことが必要です。そこには大人だけでなく、子供たちも関わるのが重要だと思えます。将来の地域を担うのは子供たちであり、子供たちが地域にどんな思いを持ち、行動するかは地域の将来を決めます。つまり、地方創生の力ギは学校が握っているのではないのでしょうか。

地域の子供たちが将来も生まれ育った地域を大切に、地域の発展に寄与したいと思うかどうかは、高校生までに地域でどんな体験をしたかに左右されます。地域を構成する様々な人々や企業が学校と連携して、地域ビジョンを語り、学びの場を提供することが地

方創生の近道だと思います。

子供たちの人生を考えた時、学びは学校で完結するものではなく、社会と関わりながら将来にわたって学び続けることが必要です。

小中高で学びをどう深めていくのか、一貫した連携が重要です。また、学校間だけでなく、企業を含めた地域の社会教育との連携をどうしていくのかも考えていく必要があります。地域学校協働活動が地域としてしっかりと根付くことが子供たちを含めた主体的で対話的で深い学びのベースになると同時に、地方創生の具体的な行動につながると思います。

社会に開かれた教育課程は単に学校教育の在り方を問うだけのものではなく、地方創生の面からも大変重要であることが分かります。社会に開かれた教育課程について、深く理解している学校関係者から地域や企業に働きかけ、地域の関係者との熟議を通して、地域の持ち味を生かした学びあい、育ちあいの土壌をつくり、子供たちと共に持続的な地方創生を実現してまいりましょう。